
ーキバ/ファイズ!ウルトラマンガイア!!スイートプリキュア ♪ 復活?魔界の王と光輝く願いのメ

R × P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

劇場版！仮面ライダーキバ／ファイズ！ウルトラマンガイア！！
スイートプリキュア♪ 復活？魔界の王と光輝く願いのメロディー♪

【Nコード】

N5138Y

【作者名】

R×P

【あらすじ】

キバの世界に戻りアークの封印状況を調べる渡
プリキュアの世界に突然現れたレジェンドルガと対人する狼たちと
響たち

そして光を手にする狼！

今！全てのアナザーワールドの世界の音楽を守る為ライダーとプリ
キュアが力を合わせ戦う！

戦いの始まり！（前書き）

いよいよ劇場版スタートです！
ではキバってSTARTUP！

戦いの始まり！

ここはキバの世界にとある森の中！仮面ライダーキバこと紅渡はエンペラーフォームとなりレジエンドルガの手下となったファンガイアと戦っていた！

キバEF「はあー！やあ！」

ザンバットソードで切り裂く！

手下「ぎゃあああ！」

手下達が全員爆死して消滅した。

キバEFは（ふう）と言い変身を解消する。

キバット「全くレジエンドルガのヤツ！ファンガイアを利用しやがって！」

タツロット「でも何故でしょうか？」

渡「色々調べてみよう！兄さんも調べているはずだから！それには口論してる場合じゃない！アークが再び目覚めてしまいその日から！それに音吉さんも心配だ！」

キバット達をつれて一同は「素晴らしき青空の会」の溜り場でもある喫茶「カフェ・マル・ダムール」に向かった。

この時、月で異変が起き始めているとは気づかず…

その頃名護たちはレジエンドルガの事について調査をしていて一般人や一般のファンガイアに聞いて回っておりちょうど有力な情報を調査隊員のファンガイアと話していた。

名護「すると君はあの建物で見たのか？」

ボロボロの古いマンションを指差してファンガイアに聞く。

ファンガイア「はい間違いないですよ名護さん！あそこを根城にしているみたいです。」

恵「だったら！」

健吾「突入やな！」

名護「突入準備しろみんな！」

隊員「了解です！隊長！」

名護たちはイクサナツクルを手に当て変身する

【レディ！】

全員「変身！」

【フィスト・オン】

イクサに変身して建物に突入する！

中には復活したレジエンドルガと新たなレジエンドレガであるイエティレジエンドルガ、グールレジエンドルガ、マミーレジエンドルガ、ガーゴイルレジエンドルガ、マンドレイクレジエンドルガ、メデューサレジエンドルガがいて他の世界へと繋がるオーラが発生していた！

ライジング「レジエンドルガ達！そこまでだ！」

イエティ「なんだ？おまえら？」

マンドレイク「あいつらは俺達に任せろ！」

メデューサ「早く行って！王を復活させるにはあの方の協力が必要なからだ！」

イエティ「ちえ！わかったよ行って来るぜ！行くぞ相棒！」

グール「…わかった…」

オーラに入って消えるイエティ達

健吾イクサ「まちやがれ！うわ！」

包帯が飛んできて邪魔をする

マミー「行かせんぞ！」

ガーゴイル「おめえ達は通さないぜ！」

ライジング「くっ！」

名護たちはレジエンドルガと対人する！

遂に世界中の音楽を守る戦いが始まったのだった！

戦いの始まり！（後書き）

次回はファイズ&プリキュアサイドです！おたのしみに！

敗北するファイズ達！そして失う仲間！（前書き）

今回はかなり暗い話になります。本当はお気に入りの彼を戦死せたくはありませんでしたが、人数を減らす為仕方ありません！後グールとの会話などを追加しました。
ではキバってSTARTUP！

敗北するファイズ達！そして失う仲間！

場面が変わりここはプリキュアの世界！

この町の中央広場では丁度ファイズ達とプリキュア達が先ほど到着した二体のレジェンドルガとの戦いが始まっていた。

ファイズBF「こいつがレジェンドルガか…」

メロディ「うゝ不気味ね！」

カイザ「初めて見る敵だがこいつはやばそうだな！」

リズム「あなた達！目的は何なの！」

互いに周りながら構えながらリズムが聞く！

イエティ「ふん！決まっているだろ？ノイズ様を復活させる為邪魔なお前らを倒す事だ！グール！おめえはプリキュア共をやれ！俺はライダーを殺る！後ファルセット！おめえ達は休んでな！」

サイガ「ああ！じゃあ頼むよ！」

グール「…わかった…任せろ…」

そう言った途端二体は地面を思いつき蹴って一気にメンバーに接近する！

ファイズBF「はっ速い！うわああ！」

カイザ「ぐわああ！」

デルタ「ああああ！」

三人まとめてイエティに殴られ吹き飛ばされ壁に「ズドゥん！」と突っ込み建物に入る！

メロディ「みんな！」

グール「…処刑！…」

グールも鋭い爪を伸ばし四人に切りかかる！

ビート「危ない！ビートバリア！」

【ガギン！】

間一髪でビートバリアで逃れた。だが

グール「…無駄…」

さらに加速しバリアに爪で無暗に？連続攻撃を仕掛ける！

【ガキーン！ガキーン！ガキーン！】

ビート「そんな攻撃じゃ私のバリアは壊せないわ！」

それでも同じように攻撃を繰り返すのでミューズは疑問を持ち始めた
ミューズ「おかしい！攻撃が効かないのは向こうもわかってはいるはず！一体何故なの？…まさか！！」

ミューズはすぐにビートに言う

ミューズ「ちがうわビート！あいつ無暗に攻撃してない！目的はバリアを破壊する事なのよ！！」

ビート「え？どういう？…えっ！！」

【パライイーン】

言ってるいる最中にバリアが破られてしまった！

ビート「そんな！！バリアが」

ミューズ「アイツは正確に同じ個所に攻撃していたのよ！！」

なんとグールはミューズの言う通り無暗に攻撃していたのではなく
正確に同じ個所を攻撃していたのだ！

グール「バリアにも弱点はある…正確に同じ個所を攻撃すれば…破壊…可能！」

今度は口を開け牙を伸ばし

グール「…頂きます！」

そのまままずミューズに襲いかかる！

ミューズ「きゃあああ！」

逃げ回るミューズ！

メロディー「ミューズ！あつ足が！」

ミューズ以外はいつの間にかグールが放ったネバネバする唾液がメロディー達の足を捕らえて動けなくなっていた！

リズム「なによこれ！」

ビート「うつ動けない！！」

必死に足を動かすが全く動かなかった！

グールがミューズに迫り遂に壁際に追い詰められ大ピンチになる！

ミューズ「誰か！助けて！！」
思わず目をつぶった正にその時！

【ヒューン！コッソ！】

石が突然投げられてグールが一瞬振り向いた隙に誰かがミューズをお姫様だつこで抱え高いビルに超人的なジャンプ力で屋根の上に助けた！

？「無事か？」

ミューズ「あつ！海さん！」

海だつた！

メロディー「今まで何所に行つてたのよ！」

驚きながら講義する。

海「町中の人々を逃がしていた！そのレジェンドルガ達の気配を感じたからな！」

どうやら海は敵の気配を感じる事が出来るらしい…

グール「貴様…何者だ！」

海「俺は藤宮^{ふじみや}海^{かい}！またを海の力を持つ男だ！」

相手を睨みつけ堂々と言う。

グール「藤宮 海？…アーク様から聞いた事ある名前…確か…ライダーだったな…」

一方のミューズは真つ赤になり言う

ミューズ「いついい加減降ろしてくれる？はっ恥ずかしいわ！」

海は黙つて降ろしグールを睨みつけながら言う

海「おまえ！グール伝説の元になったレジェンドルガだな？」

グール「ああ…その通りだ…」

リズム以外？になる

メロディー「グール伝説？」

ビート「なにそれ？」

海「人を襲つて食べたりする伝説の怪物のことだ！」

リズム「本で見た事あるわ！たしか神話やイスラム教で出てくる怪物よね？」

海「ああ！だがオリジナルはこいつだ！こいつに噛まれた人間はゾンビになるってキバット二世さんが言っていた！」

メロディ「なるほど！だから町の人々を！」

納得するメロディー

グール「ほう！…随分…詳しいな…しかもキバットからか…」

海「ああ！もつとも彼は先代のキバから聞いたらしいが…」

そう言いながらアグレイターを構え言う

海「それにお前の弱点も聞いておいたからな！覚悟しろ！」

グール「？どういう…？」

アグレイターが回転して展開する

海「アグルウウウウ！！！」

眩い光と共に叫びアグルに変身する！

グール「うわああああああ！まぶしいiiiiiii！」

苦しみ喘ぐグール

メロディ「もしかしてコイツ！」

リズム「光に弱い？」

アグル【ああ！こいつは聖なる光と炎に弱いんだ！】

変身し終えたアグルはそう言い地面に向かって思いっきりパンチする！

アグル「デユワ！」

地面が割れプリキュア達も解放される！

ビート「ありがとうアグル♪」

アグル【礼はいい！君達は必殺技の体制に入れ！こいつを倒すには俺達の力を合わせるしかない！】

ミューズも降りて来て

四人「わかったわ！」

それぞれの必殺技のアイテムを召還し構える！

メロディー「奏でましょう奇跡のメロディ〜！ミラクルベルティエ！おいでミリー！」

リズム「刻みましょう！大いなるリズム！ファンタスティックベル

驚愕するプリキュア達

グル「はあ！はあ！【まさかライダー以外の力を持っていたのか……！】覚えてろ…アグル…」

苦しそうにしながらも床に爪を立て砂煙を起して消える

アグル【まで！ぐー！】

アグルは跪き輝いて海に戻る！

海「まさかここでエネルギー切れなんてな…すまない俺の責任だ！くっ！」

苦い表情になりながら言う

ミューズが近寄って立たせながら言う

ミューズ「仕方ないよ海さん！それより！」

ビート「狼くん達大丈夫かしら？」

心配し急いで壁が破壊された建物に向かう

一方のファイズたちは？

ファイズBF「うおおおおおおおおお！」

イエティ「おおおおおおおおお！」

ファイズBFはなんとか立ち上がってイエティ相手に激しいパンチやキックのラッシュでお互いを攻撃しまくっていたが遂にファイズBFが力負けして強烈なパンチで吹き飛ばされてしまった！

ファイズBF「グハア！グホ！グホ！」

再び壁に激突しマスクの中で血を思いっきり吐いてしまう狼！

イエティ「どうした？その程度か？」

ファイズBF「まだだー！！」

ファイズBF何とか立ち上がり、

【5214 ENTER】

のコードを入力して

【Faiz Blaster Discharge】

ブラッディ・キャノンを起動させ、さらに

【103 ENTER】

のコードを入力し

【Blaster Mode】

ファイズブラスター／フォトンバスターモードを構えボタンを押す！！

【Exceed Charge】

ファイズBF「喰らえ！！フォトンバスター フルブラスト！！」

イエティに向けて凄まじい銃撃を開始する！！

ファイズBF「うおおおおお！！！！」

【ガガガガガガガ！ズドゥン】

【ドッカーン】

大爆発が起こる！！

ファイズBF「どうだ！！なっ！」

なんとイエティはあれだけの銃撃を全て耐えていて為ほとんど無傷だった。

イエティ「ああ！くすぐったい攻撃だったな！おら！！」

パンチがファイズBFに当たり倒れるファイズBF！

狼「ここまでか！！くそう！！」

イエティ「さてトドメを…うん？」

【ビューン！ビューン】

狼に迫っていたイエティの肩に光弾が当たる！それは立ちあがって互いに銃を構えたカイザとデルタが撃った物だった！

カイザ「やらせるか！」

デルタ「次は僕たちが相手だ！」

するとイエティは苦笑して…

イエティ「くくく！いいだろう！まずは…お前達から殺ってやる！」

そう言うと同時に一瞬で消えてしまう！

カイザ「またか！うわあ！」

吹き飛ばされ壁にめり込み気絶するカイザ！

カイザ「うん？！」

デルタ「成二さん！　いつたいどこから？」

デルタは辺りを見回し銃を構える！すると

イエティ「おせえ！」

腕が鋭いヤリに変化しそのままデルタの前に現れる！

デルタ「なっ！」

イエティ「まずは一匹！死ね！」

【ドシユ！】

デルタの腹を完全に貫く！

デルタは自分の腹を見てそして相手を見つめ……

デルタ「ぐっ！がはっ！」

ガクリとうなだれ変身が解除される。

ファイズBFはその光景を見て凍りつき絶叫してしまう

ファイズBF「甲オオオオオオオオ！！！！！」

イエティはうるさいハエでもつぶしたような顔で腕を甲から引き抜き押し倒す！

【ドサ！】

イエティ「実に弱い奴らだ！あゝあ！なんだか殺る気うせたなゝ！
うん？グールの奴も深手受けたのか…帰るか…オイ！ファルセット
！案内しろ！」

サイガ「ああ！全員撤退だ！」

サイガは闇の空間を作り敵メンバーは撤退するがファイズBFは放
心状態になっていて気づいてもいなかった！

間もなくしてプリキュアチームが到着する！

メロディ「みんな！大丈夫… ああ！甲くん！」

リズム「そんな！甲くんしつかり！」

「ビート、嘘でしょ！ 甲くんが…そんな…」

海「おっおい！申！！しっかりしろ！」

4人は急いで駆け寄るがミューズは何も言えず呆然と立っていた。

甲は天上を見つめて苦しそうに手で腹部を押えていた。

ファイズBFも変身解除しヨロヨロと近づき甲に話しかける

狼「おい！しっかりしろよ！今助けて…」

甲が首を振り言う。

甲「もう…僕は…駄目だ…だから…何も…するな…」

狼「バカヤロウー！絶対助けてやる！」

すぐにフォンでスマートに救急部隊の応援を呼ぶ！

狼「至急きてくれ！重傷一名軽傷一名だ！早く…」

甲「狼…この傷…じゃ…もう…僕は…ぐ！」

苦しむ甲！

海「もう喋るな！これ以上喋ったら…」

また首を振り最後の力で海に向かって

甲「いい…んだ…それと…やっと…会えたね…兄さん…」

そう言った直後彼は灰になり綺麗に消えてしまった！

メロディー「そんな！うっう！」

リズム「いやよ！甲くん！まだ！まだ！あなたは！ああああ…！」

プリキュア達も泣き叫ぶ！

狼はフォンを落とし叫ぶ！

狼「甲オオオオオ！！！！うわああああああああ」

辺り一面狼たちの絶叫で響きわたる最悪の敗北だった。

続く！

敗北するファイズ達！そして失う仲間！（後書き）

いかがでしたか？

甲よ！君の事は忘れない！さらば！

次回はキバサイドです！お楽しみに

イクサの激闘！そして邪悪なライダーアーク復活！！
(前書き)

いつもより短めです。

ではキバってSTARTUP！

イクサの激闘！そして邪悪なライダーアーク復活！！

場面が変わりここはキバの世界の古ビルの中。

今イクサたちはレジエンドルガ達と激闘を繰り広げていた！

【ズガガガガガ！……ドドドドドドド！……！】

量産型イクサ達がイクサキャノン／マシンガンモードを連射し四体のレジエンドルガが呼び出した手下のファンガイア達を撃退していたが数があまりに多いので苦戦していた！

Aイクサ「く！数が多い！」

B「怯むな！名護隊長も頑張っているんだ！攻撃の手を辞めずにいけ！」

C「おう！行くぜ」

さらに攻撃を加え頑張る部隊！

一方の名護たちは？

名護はマンドレイクと戦っていた！

ライジング「は！たああ！」

イクサカリバーでマンドレイクを一刀両断で倒す！

ライジング「イクサ！爆現！！」

太陽と共に切り裂きマンドレイクは倒れながら

マンドレイク「ぎゃああ！俺！今回も活躍これだけ……？」

すまんマンドレイク！君！原点でも出てきて数秒で撃沈していたから！（笑）

マンドレイク「マジすか……！ナレ……ション！ぎゃああああ！アーク様に栄光あれ……！」

爆死してそのままエナジーが飛んで行く！

ライジング「今のは一体？」

こちらは外の廃墟の地に移動した恵イクサ対メデューサ
恵イクサ「コイツ！」

アローフェッスルを取り出し走り出す！

メデューサ「死ね〜！」

蛇を飛ばして攻撃してくるが恵は怯むことなく走り差し込む！

恵イクサ「これで決める！！はあ〜！」

【イクサ・アローライズアップ！】

恵イクサ「いけ〜！」

強烈なエネルギーの矢が連射されメデューサレジェンドルガを射止める！

メデューサ「くっ！がああ！おつおのれ〜！アーク様！ああ〜！」

爆死しエナジーが飛び出ていった。

恵イクサ「はあはあ！何とか勝ったわ！でも今のは？」

こちらはビルの二階で戦う健吾イクサ対マミーとガーゴイル！

二体相手だったが健吾は勇敢に立ち向かっていた。

健吾イクサ「おりやああああ！！！」

鍛え抜かれたキックでマミーを蹴り飛ばす！

マミー「ぐお！！！！！」

さらに反動で飛び上がりそのままナツクルフェッスルを入れてガー

ゴイルに向けてブロウクン・フアングを発動する

健吾イクサ「俺のロック！！！！聴きやがれ！！！」

【イクサ・ナツクル・ライズ・アップ！】

見事に技が決まり！

ガーゴイル「アーク様バンザ〜イ！ノイズ様バンザ〜イ！ぐあああ

あ！！！！！」

こちらも爆死しエナジーが飛んで行く。

マミーはフラフラと立ち上がり

マミー「く！だが…コレでいい！イクサ達よ！また会おう！」

周りにガスを吐いて消える。

健吾イクサ「待てやコラ！ゴホゴホ」

健吾イクサはガスを吸って咳き込む！！

そしてガスが消えた時にはマミーは完全に姿を消していた。

健吾イクサ「くっ！アカン逃げられてもうたわ！しかしアークはわかるけど…ノイズって誰や？」

健吾イクサはそう考えながら名護たちの下へ集まる

Aイクサ「隊長！手下は何とか撃退しました。」

敬礼して報告する隊員。

ライジング「ご苦労だった。」

Bイクサ「しかしあいつら残りのレジェンドルガ達を一体何所へ送ったのでしょうか？」

ライジング「わからない…だが気になるな！レジェンドルガは倒された時何かエネルギーみたいな物を何所かに送っていたみたいだった。」

マスクの中でしわを寄せて話す。

恵イクサ「私もよ！一体アレは何だったのかしら？」

腕を組み首を傾ける。

健吾イクサ「俺も同じですわ！しかも俺が倒した奴は最後に【ノイズ様バンザイ】って言ってましたよ？意味がわかりませんわ隊長！」

しばらく沈黙し

ライジング「とりあえず一旦本部に戻ろう。それらの事も調べなければならぬ…」

こう言った後名護たちは撤退し始めた。

その頃月では先ほどのエネルギーが集まっていた。そして地面のキバの紋章が砕けちり！！

？「時は満ちた…今こそ…復活の時だああああ！！！！！！うおおおおお！！！！！！」

地面が割れ本来の大きさではなく等身大のアークが出てきたのだ！
アーク「む？これは？そうか…まだキバの力の影響で本来の力が出せてないのか…まあいい…それよりも…」

地球を見つめ言う。

アーク「ノイズもそろそろ目覚めている頃だろうか？あの2人なら既に向こうの戦士共を…うん？」

割れた地面から紫の剣を取り出す

アーク「これは？」

アークが剣を見つめて頃、渡は喫茶「カフェ・マル・ダムール」に入って行っていた。

中では嶋と太牙がコ・ヒーを飲みながら待っていた。

渡「嶋さん！それに兄さん！」

驚く渡！

太牙「待つてたぞ渡！」

嶋「渡くんか…丁度良かった。今太牙から新たなレジェンドルガ達について話していた所だ。」

渡は席に座ってマスターにコ・ヒーを頼み、太牙から新たな情報を聞き

渡「イエティーにグールか…厄介な奴らだね兄さん…」

太牙「ああ、しかし僕らが力を合わせれば何とか倒せるかもしれない！だから今はアークについて色々調べていた所だ…そうしたら僕の祖父がかつてメイジャーランドとこの世界守る為封印したことがわかったんだ。それにあの時お前が封印したアークは今かつてより力が増している可能性がある。」

驚く渡！！

渡「そんな！！早く聖なる闇の力を宿したこの剣で奴を倒さないと…世界の音楽が…」

渡はこの世界に戻り闇を極める修行をして正しき闇を入手していたのだ！！

ここで嶋さんの携帯が鳴る

嶋「ちょっとしつれい！！もしもし私だ…なに？外で人々が襲って来る！？どう言う事だ名護くん？」

名護「原因はおそらく…邪魔するな！！…失礼！！おそらくレジエンドルガの仕業かと！！」

広場で戦いながら会話を続ける名護とメンバー達。

嶋「レジエンドルガに手下にされた人間か…厄介だな…」

嶋はかつての事件を思い出しながら言う。

太牙「嶋さん代わってください！！」

嶋が携帯を太牙に渡す！！

太牙「名護くん！！どんな感じで人々は操られている？」

名護は相手をよく見て…

名護「まるでゾンビみたいに動いていて…首辺りに鋭い歯で噛まれた後がある…くっ！！これ以上は生身で無理だ！！変身！！」

名護達は変身して戦い始める。

ライジング「く！！相手が人間だと戦えない！！」

太牙「グールの仕業だ！名護くん！その人間は既に死んでいる！！」

ライジング「なに！！本当か！！く！！」

会話を聞いていた他のイクサメンバーもコレを聞いて驚愕する。

恵イクサ「じゃあこいつらなんで動いているの？くっくるな」

ジャンプして逃げる恵。

太牙「グールは捕食した相手をゾンビにする能力があるんだ。おそらくグールが眠りから覚めた最捕食した人々だ！だから倒せ！！そうしないと君たちもそいつらに噛まれてゾンビになってしまう！！」
健吾イクサ「マジかよ！！冗談じゃねえぞ！！くっくそう！！来るんじゃねえ！！」

パンチでゾンビを吹き飛ばす！！

アイクサ「どうやってたおせば？？」

マシンガンで連射するアイクサ

太牙「頭を狙え！！そこが弱点だ！！」

全員頭を狙い打ち何とか撃退を始める！！

渡「兄さん僕たちも行こう！！皆を助けに！！」

太牙は頷き

太牙「ああ！！」

嶋「私はここでマスターを守る！！早く行ってくれ！！」

渡たちは頷き

渡「マスターコーヒー代ここに置いておきます！！」

そう言ってお金を置いて渡たちは店を飛び出して走り現場に向かって走って行くのだった。

続く

イクサの激闘！そして邪悪なライダーアーク復活！！
(後書き)

次回はプリキュアサイドです。
では次回もお楽しみに！！

それぞれの心の傷と謎のウルトラマンとプリキュア？ガイアの光（前書き）

今回からいよいよ狼がガイアの力を入手します。

変身はまだですがお楽しみに！

ではキバってSTARTUP!!

それぞれの心の傷と謎のウルトラマンとプリキュア？ガイアの光

ここはマイナーランド 丁度グールが三日前に受けたダメージを回復する為治療ボックスに入っていた。

グール「……………」

イエティ「相棒…まあコイツなら問題ない…おいそのカエルと猿！さっさと働け〜！！」

このマヌケ2人組みはキバの世界と繋ぐゲートを作っていたのだがあまりに遅い上愚痴をこぼしていたので、二人に毛をミサイルみたいに飛ばしてお仕置きする！！

バストラ「もっ申し訳ありませんイエティ様！！いて！いて！ぎゃあ〜！」

バリトン「すつすぐに完成させます！！いたい！いたい！だっだからやっやめて〜」

何とも間抜けな2人にイエティはやれやれと首をふる。

ファルセット「すまないな〜間抜けな奴らで〜」↑人の事言える奴？

バストラ「お前もだろ！」「ぎゃあ〜！すみませんやめて〜！」

またお仕置きされる。

ファルセット「ところで、2人がここに來たって事はアーク様が蘇ったのか？」

心配そうに聞く

イエティ「ああ！今頃復活なさっているだろう、だが…」

ファルセット「だが？」

イエティ「まだ不完全だろうな。キバのせいで今はかなり弱くなっているはず…一刻も早く不幸のメロデーを聴かせ力を回復させる必要がある。もちろんノイズ様も同じだ！！」

ファルセット「ああ！！だが少し困った事がこの三日間の間に起きたぞ！！」

イエティは王座に座りながら聞く

イエティ「どうしたんだ？」

ファルセット「実は…石版が壊れてノイズ様は何所かに行ってしまったのだ。」

それは三日前丁度狼たちが戦いが終わったところ

ノイズ「ゲギヤアア！」

石版が砕けてノイズが何所かに飛び去ってしまったのだ！

イエティ「なるほど…だがノイズ様の事だ！心配はいらん。」

ファルセット「ええ！どういう？」

イエティ「おそらく今頃どこかで力を蓄えているに違いないって事だ！まあ体は不完全だろうが…それに…」

ファルセット「それに？」

イエティ「何でもない【報告で聞いたが…アグル…何者だ…】」

ファルセットは？になつてしまがこう言い出す

ファルセット「さて！俺は音符集めに行つてくるか。」

腕を回し出て行こうとするファルセットにイエティが

イエティ「一人でか？」

と聞く

ファルセット「ああ！！奴らも相当落ち込んでいるハズだからな俺一人で十分だ！！フフフ！！」

ファルセットはそのまま出て行つた。

場面が変わりアリア中の教室

狼はシヨックの影響で今日も学校を休んでいた。

響「また休みなのね…」

奏「後で狼くんのお家訪ねて見ましょう？ねっ？」

エレン「うん…」

響とエレンは元気が無い返事をする。

すると奏は

奏「2人とも！！私達まで暗くなっちゃ駄目！！私達で狼くん元気づけてあげないと！！」

はつきりと言う奏！

エレン「そうだね！！」

響「よし！狼くんを元気付ける作戦行こう！！」

みんな「オー！！」

3人が元気に盛り上がっている頃、狼は勉強机でぼーとしていた。

【カチャ】

扉が開き父親の巧が入ってくる。

巧「狼…」

巧はベッドに座り

巧「狼いつまでも落ち込んではいられないぞ！敵はこれからもっと積極的に攻撃してくる…それに甲もきつとお前が最後まで戦う事を望んでいるはずだ。」

狼は背中を向けたまま

狼「だけど！！俺は…もう友だちを失いたくない！！それに俺…怖いんだ！！また友だちを…犠牲にしたくない！！」

震えながら言う。すると巧は

巧「確かに…友だちを失うのは辛い！！だが甲はまだここで生きている！！」

えっ！！となり狼が驚く！！

狼「なに言ってるんだよ父さん！！アイツはもう…」

巧「もちろん生きてるんじゃない。甲はお前の心で生きつづけているんだ。お前は一人じゃない…心は常に仲間と繋がっているんだ。」

狼「…」

巧「それと響ちゃん達が来てくれているぞ？会ってやれよ？」

狼は無言のままリビングに行く就先ほど到着した3人がいた。

響「ひっさしぶり〜！！狼くん元気だった〜？」

元気良く話しかける響

奏「はい！コレ！狼くんの為に元気が出るチーズケーキ焼いて来たよ？」

ニコニコしながら渡す

エレン「早く元気になってね？みんな待っているから
笑顔で言うエレン

狼「みんな…ありがとな！！よっし！！今日から復活だ！！」
ようやく笑顔が戻る狼。

そして皆でケーキを食べながら

響「そう言えばこの三日間家で何していたの？」

狼は紅茶を飲み

狼「ぼーとしたり不思議な夢を見てた。」

エレン「不思議な夢？」

狼「ああ」

狼は話だす

夢の中

狼「ここは？うん？」

不思議な赤い光が狼に近づいて来た

狼「？なんだ」

赤い光「トキガキタ…ワレノチカラヲ…キミニタクス…」

そう言つて狼の体入る

狼「俺はそこで目覚めたんだ。そしてコレが机の上にあつたんだ。」

そう言つて部屋に戻り逆三角形の物を取つて戻ってきた。

奏「それはなに？」

狼「わからない…ただ名前はわかるんだ。こいつはエスプレンダーだ。」

響「エスプレンダー？なんか海さんの物と似てる…！！」

エレン「もしかしてそれもウルトラマンの？」

狼は首を振り

狼「まさか！！俺が？そんな訳が…うん？」

するとエスプレnderが光出して見たこと無いプリキュアと翼が付いたウルトラマンがホログラム像になって出てくる。

プリキュアはキュアリズムに似ていたが衣装が全て真っ白でウルトラマンは全身が銀だった。

全員びつくりして驚く！！

狼「キミ達は一体何者なんだ？」

響「あなた達誰なの？」

謎のプリキュア「私はキュアシンフォニー全ての音楽を奏でる者。」

謎のウルトラマン「私はウルトラマンノア全ての光を集う者。犬上

狼よ、キミは選ばれた存在だ…」

狼は驚きながらも聞き返す

狼「選ばれた存在？どういう事だ？」

シンフォニー「あなたにはノイズとアークを倒すもう一つの手段としてあなたに大地のチカラを授けました。あなたは光の勇者の素質を持っています。」

エレン「光の勇者？」

ノア「そうだ！その力は地球の大地の記憶 幸せの音楽の記憶 そして勇気の光で出来ている。今は不完全だが残りの光を探しだしその力で彼らを倒すのだ。選ばれし勇者よ！！」

狼「俺が光の勇者？マジかよ！！」

啞然となりそう言う狼

ノア「その勇者は全ての力を受け入れた時真の姿で目覚める！！その名は…」

そう言つて消える。

エレン「消えちゃった」

奏「最後なんて言つたの？聞き取れなかったわ。」

すると狼がつぶやく

狼「ガイアか…」

響「？」

奏「ガイア？」

狼「この光の名前さ…さっきのウルトラマンが言っていた。【もしかしたら先代のキバが言っていた光ってコレの事だったのか?】」
みんなが啞然となっている頃

とある浜辺では藤宮海があこの出来事の事を思い出しながらペンダントを見つめていた。

海「甲…」

あの戦いが終わリスマートでは甲の遺品整理していた時彼のペンダントが見つかったのだ。そのペンダントには藤宮甲と彫られていた。このペンダントは海が作った者だったのだ。

海「アイツ…一度死んでオルフェノクになり記憶を失って…苗字変えて生きていたなんてな…」

そこに奏太と一緒に下校していたアコが通りかかる

奏太「あれ?あの人確かアコの知り合いだよな?」

アコ「うん…海さん!!」

海が振り返り

海「うん!?今帰りか?」

そして3人で帰宅路を歩き2人は海がおごった焼きたてのメロンパンを公園で食べていた。

奏太「海さんありがとう!!コレ旨い!!」↑もぐもぐしながら

海「ああ!すっかり食えよ!!子どもはどんどん食って身長でかくならないとな」

笑顔で言う海だった目が少し悲しそうだった。

アコ「…そういえばさっきペンダント見てたよね?あれって」

心配そうに聞く

海はしばらく黙り

海「ああ、甲の形見だ。俺が昔アイツの為に作った奴でな、アイツの部屋に置いてあったそうだ。」

空を見上げ海は続けて言う

海「俺は正直あまり悲しくはない、むしろアイツと出会えたのは良かったと思ってる!!また何所かで会える気がするしな!」

にやっと笑いアコ達に言うがアコは海の本当の気持ちがわかって
いた。

アコ「海さんは笑っているけど心からじゃない…本当は泣きたいほ
ど辛いのに…」

アコは何もいえなかった。

？「あゝあゝなんか無理しちゃって！ばゝかだなゝ」

いつの間にかその場にいたファルセットだった！！

アコ「ファルセット！！」

驚いて立ち上がるアコと海！！

奏太「あの人も知り合い？」

アコ「今は答えられないわ！奏太逃げて！！」

奏太は困惑してしまった。

一方の海は怒りの声を上げファルセットに聞く！！

海「貴様！！どういう意味だ！？馬鹿だと！！」

ファルセット「うるさいなゝこう言うことだよ！！フン！！」

海たち「！！うわあ！！」

衝撃波が放たれ3人が吹き飛ばされペンダントがファルセットの足
元に転がる。

ファルセット「おっ音符見つけ！！いでよネガトーン！！」

ペンダントに付いていた音符がネガトーン化してしまう！！しかも
いつもの倍以上の大きさだった。

ファルセット「どうだ！コレが改良版の巨大ネガトーンだ！ふはは
はは！！」

海は怒りで拳を握りながら立ち上がり

海「貴様！！欲も弟の形見を！！」

アコ「奏太しっかり！！奏太！！」

奏太は気絶していた！！

ファルセット「はあゝ？そんなに大事なものならしっかり守れよフ

ハハハハハハ！！！！」

馬鹿にしたように笑う。

すると普段は冷静でクールな海がさらに強く拳を握り睨みつけ海「貴様だけは！！ぜったいに！！！！絶対に！！！！許さん！！」

アグレイターを構え凄まじい怒りの声で叫ぶ！！

海「アグルウウウ！！！！うおおお！！！！」

ブレスが回転してブレードが展開し通常サイズのアグルに変身する！！

アグル「ホワアア！！！！」

地響きを発して地面にしゃがみ独特のポーズをした後立ち上がる

アグル「【こい！！ネガトーン！！ぶっ倒してやる！！】ジユワアアア！！！！！！！！」

凄い勢いでネガトーンと組み合わせ放り投げて行く！！

アグル「ジユワアア！！！！」

アコ「海さん凄く怒っている！！大丈夫かな？」

心配するアコ

一方のファルセットは？

ファルセット「な！なんだ！コイツもライダーなのか？しかもデカイ！！」

驚愕して腰を抜かしてしまう

アコ「違うわ！！彼はウルトラマンアグル！！」

アコがファルセットを睨みつけながら

アコ「海さんの大事な物をあんな事にして！！しかも奏太まで襲って！！私あなたを！！絶対に許さない！！」

アコは変身する！！

アコ「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

ポーズを決めるミューズ

ファルセット「ふん！知ったことか！！」

ファルセットは何とか立ち上がりタイガーに変身する

タイガー「プリキュア一人にライダーの力はいらない！！来いキュ
アミューズ！！」
ミューズ「行くわよ！！！！はああ！！！！」

続く

それぞれの心の傷と謎のウルトラマンとプリキュア？ガイアの光（後書き）

次回で二つのクロスから一つの話になります。

キュアシンフォニーは以前仮イラスト見てここでは初代プリキュアという形で登場します！！もちろん話が進んで行き少しずつ明らかにしていくつもりです。

後お気づきの方ならもうわかりましたか？

実は巧の台詞の一部ウルトラマンメビウスからのオマージュです

！！

いやー！！この台詞「心は常に仲間と繋がっているんだ！！」

一番好きな台詞だったので入れたかったんですよ！！

では次回もお楽しみにー！！

アーク降臨！！　そしてガイア登場！！　（前書き）

いよいよガイア登場です！！
ではキバってSTARTUP

アーク降臨！！　そしてガイア登場！！

場面が変わりキバの世界

渡たちが駆けつけたおかげで変わり果てた人間をなんとか全員始末し終えた所だった。

恵イクサ「グールの奴！！こんな酷い事して！！絶対に倒さないと！！」

ライジング「ああ！！それに渡くん！！助かった。ありがとう」

渡と太牙は生身だったが2人はそれぞれファンガイアの血を持つ為普通に戦ってゾンビを始末したのだ。

渡「ええ名護さん…うん？あれは何だろう？」

空中から火の玉が【アークが】降りてくる！！

太牙「あれは・・・アーク！！」

全員「な！！」

全員驚愕する！！

渡「アーク！！いつの間に封印を！」

キバット「渡！！変身だ！！すぐにアイツは来るぞ！！！！」

渡「わかった！！キバット！！」

キバット「いよっしゃ～キバって行くぜ！！」

太牙「守り抜いてみせるこの世界を！！キバット！！」

二世「おう！！」

二匹は2人の手を噛む

「ガブ！！」

渡&太牙「変身！！」

キバEとDキバにそれぞれ変身する！！

変身が終わった直後アークが地響きを立て到着する！！

その衝撃で名護たちが吹き飛ばされ建物に激突し全員気絶してしま
う！

キバE「名護さん！！恵さん！！健吾さん！！」

キバEは駆け寄ろうとしたがDキバが止める。

D「渡！！アークが先だ！！」

キバEは止まりアークに向き直る。

アーク「ふっ！！やっと戻ってこれたぞ！！キバ共！！覚悟しろ！！」

構えるアーク

キバE「くっ！！こつちも負けない！！行くよ！！兄さん！！」

Dキバ「行くぞ！！渡！！」

キバEはザンバットシールドからザンバットソードを拭きぬきDキバもダークザンバットを取り出す！！

アーク「残念だが…俺の攻撃には通用しないぞ！」

見たこと無い紫と黒の大型片剣を取り出して衝撃波でキバたちを吹き飛ばす！！

キバEたち「うわああああ！！！！」

キバEが構えたザンバットシールドのお陰で何とか致命傷にはならなかったが…

キバE「うっ！！なんて攻撃だ！！あんな剣があつたなんて…そっそんな！！」

なんとザンバットシールドがたったの一撃でボロボロに破壊されていたのだ！！

Dキバ「なんて凄まじい破壊力のある剣だ！！ザンバットシールドを一撃で破壊するなんて！！！！」

驚く二人

アークは剣をふり回して肩に担ぐ

アーク「この剣は月で見つけた究極の闇の剣だ！！覚悟しろキバ！！」

だがキバEはザンバットソードを構え

キバE「まだまだ！！受けてみるアーク！！これが正しき聖なる闇だ！！！！」

【ウエイク！アップ！！】

剣に闇が集まり刀身が七色に輝く！！

アーク「ぐ！！それは！！」

コレを見たアークは突然あえぐ！！

キバE「行くぞ！！はああああ！！！！」

剣を振り下ろした瞬間だった！！

？「アーク様！！！！ぐわああ！！！！」

それは突然間に入ってアークを庇うマミーレジェンドルだった！！

キバE「な！！」

Dキバ「く！！こんな時に！！」

アーク「マミー！！」

マミーは包帯で空間を作り

マミー「王よ！この空間に！彼らが！ぐああああ！！！！」

爆死するマミー

アーク「仕方ない！！また会おうキバ！！」

アークが空間に入る！！

キバE「まで！！」

キバEも飛び込んで追いかける！！

Dキバ「渡！！」

空間が閉じキバEとアークは消えてしまった！果たして彼らは？

こちらはマイナーランド 先ほどやっとキバの世界とつなぐゲートマシン？が完成してバストラ発ちは休憩していた。（イエティは休んで寝ています）

バストラ「でっ出来た！！」

バリトン「つつ疲れた！！あつ！！」

なんとネジが一本取れていたのだ。

バストラ「いいんじゃないか？一本ぐらい……うん？」

突然ゲートが作動し始めていたのだ！！

バリトン「何故ゲートが？まさかアーケ様？」
凍りつきながらバストラを見る！
バストラ「嫌な予感がするな〜！！」

場面が変わり公園の広場

アグルは怒りの感情が強すぎた為大幅にエネルギーを失いライフゲ
ージが激しく点滅して力がかなり落ちていた！！
アグル【ぐっ！力が…だがまだまだ！！】
それでも果敢に攻め続けるアグル

だが…

ネガトーン「ネガト〜ン」

ネガトーンがチェーンの鎖をアグルの体に巻きつけ近くの建物に激
突させる！

アグル「フオワアアア！！！！」

アグルはアグルブレードを出そうとするがライフエナジーがさらに
激しく点滅し身動きが取れなくなってそのまま倒れる。

ミューズ「アグル！！」

タイガー「自分の心配もするんだな！！キュアミューズ！！！！」

するどい爪でミューズを切り裂き吹き飛ばす

ミューズ「きゃあ〜！！」

吹き飛ばされるミューズ！！

アグル【ミューズ！！ぐっ！！力が！！】

アグルはとうとう力尽きて海に戻ってしまった。

海「はあはあ！！ぐっ！！体が…動かない…」

そのまま倒れこみ意識を失う海

ミューズ「【このままじゃやられる……みんな……助けて……！】」

タイガー「トドメだ……キュアミューズ……！」

とタイガーが両腕に力を注ぎトドメさそうとした正にその時！
？「させるかよ（ない）……！」

それは変身して駆けつけたファイズとメロディたちだった……！
3人「プリキュア・スイートハーモニーキック……！」

【Exceed Charge】

ファイズ「くらえ……！クリムゾンスマッシュ……！」

それぞれのキックが決まりタイガーは吹き飛ばされる……！

タイガー「ぐおお……！！後一步で……！！ちっ……！！」

なんとか立ち上がって消え去るタイガー

ファイズ「逃げたか……！」

悔しがるファイズ

メロディ「ミューズ大丈夫？」

ミューズ「うん……！ありがとうみんな……！それよりもみんなどうして
ここがわかったの？」

ファイズ「オートバジンが連絡して教えてくれたのさ……！」

数分前

狼は響たちからアグルの話を聞き終えた所だった。

狼「まさか海がウルトラマンに……！知らなかったな……！」

響「あたしも驚いたわ……いきなり変身したし……！ホンとびっくりし
ちゃって……！」

とここでファイズフォンが鳴る。

狼「うん？パトロールに出ていたオートバジンからだ……なに……！ミ
ューズとアグルが交戦してるって……！！」

奏「大変……！！」

エレン「助けに行きましょう……！！」

そう言っただけで飛び出してオートバジンの地図の通りに公園に向

かった

ファイズ「っと言う訳さ…それよりも…なにあの化け物？」

ネガトーンが海達に迫っている！

リズム「なんて大きなネガトーンなの！！奏太！！」

奏太も海の近くで気絶していた。

ファイズ「海達は俺が助ける！！みんなは注意をそらしてくれ！！
ビート「ええ！！」

まずはファイズが救助に向かう！！

【complete】【Start・up】

ファイズはアクセルフォームに変身して高速で海たちを救助し四人はパンチやキックで果敢に攻める。

だがネガトーンが大きすぎる為思った以上のダメージを与えられない！！

メロディ「こいつ！！強い！！」

ミューズ「それなら！！おいでシリー！！」

シリーが飛んで来てキュアモジュールに収まり

ミューズ「シの音符のシャイニングメロディ！プリキュア・シャイニングサークル！！」

4人の幻影を生み出し、五芒星のようなサークルを描いてネガトーンを拘束する！！

ビート「これで一気に行きましょう！！」

ファイズ「いや駄目だ！！コレだけデカイ奴だとプリキュアの力だけじゃハーモニーパワーが足りない！！浄化する前に脱出する可能性がある！！」

戻ってきたファイズが意見を言う

ミューズ「そんな！！」

リズム「せめてアグルが力を貸してくれれば…そうだわ！狼くん！
！さっきの力使えば！！」

ファイズ「ガイアか！！よし！！やってみるか！！」

変身を解除してエスプレンダーをとりだし両手で前に突き出して構えて叫ぶ！！

狼「ガイアアアア！！！！！！」

眩い赤い光が放たれ狼が光と一体化しグングン大きくなり赤と銀そして少し金が入った巨人ウルトラマンガイアに変身する！

ガイア「デュワアアア」

地響きを立てて降り立つガイア！！

メロディ&リズム「スゴイ！！」

ビート「これがガイア……」

ミユーズ「新しいウルトラマン……すごい……くっ！！」

シャイニングサークルが不安定になり始める！！

ガイア【後は俺がやる！！離していいぞ！！】

シャイニングサークルが解除される。

ガイア「ジュワ！！」

ガイアはそのままネガトーンを掴み倒すと超高速で回りジャイアントスイングで空中に放り投げる！！

ガイア「ジュワアアアア！！！！！！」【どうだ俺のスイング！！！！！！】

メロディ「やり過ぎじゃない？」

目が点になる。

ガイア【とにかく今だ！みんな！合体技だ！！】

メロディ「わっわかったわ！！みんな行くよ！！」

四人はヒーリングチェストを取り出し

四人「出でよ、全ての音の源よ！」

クレッシェンドトーンを召喚し

四人「届けましょう、希望のシンフォニー！プリキュア！！スイートセッション・アンサンブル・クレッシェンド！！！！」

両腕をクロスしたままクレッシェンドトーンの金色の光の炎と一体化して飛行・突撃する！

ガイア「ジュワ！アアアア！！デュワアアア！！！！」

それに合わせガイアも腕をT字型に組んでエネルギーを溜め、右腕をL字型に構え直して左手を右腕の関節に乗せて必殺光線の一つクアンタムストリームを放つ！！！！

クアンタムストリームとスイートセッション・アンサンブル・クレッシェンドが合体する

ガイアとメロディ「プリキュア！！スイートセッション・クアンタムストリーム・クレッシェンド！！！！」

そしてメロディ達が決める！！

四人「フィナーレ！」

ネガトーンは浄化され元の音符とペンダントに戻る。

ガイア【何とか終わったか…】

ガイアとプリキュア達はは辺りを見渡す

メロディ「あちゃ〜公園とかが全部ボロボロだ〜！」

リズム「なんとしないといけないわね〜はあ〜！！」

全員悩むがガイアがひらめく！！

ガイア【待てよ！ウルトラマンの技なら！！】

ガイアは腕をクロスして光を出し一瞬で全て元通りになってしまう！！
ビート「すごい！！一瞬で！！」

ガイア【まあな！！うん？】

【ピコン！ピコン！ピコン！ピコン！】

ライフゲージが点滅し始める。

ガイア【げっ！！もうパワー切れ？】

そう言いながら狼の姿に戻りプリキュア達も元の姿に戻って海と奏太を起す。

狼「お〜い起きろ！！いつまで寝てるんだ！！」

奏「奏太！！しっかりして！！」

海「ぐっはっ！ネガトーンは！！いや俺のペンダントは！！」

奏太「はっ！！どうなったの！！ってお姉ちゃん？」

2人が目覚める。

奏「良かった!!」

奏太を抱きしめる。

狼「ペンダント?」↑首をかしげながら

エレン「コレの事?」

エレンが渡す。

海「!!...ありがとな」

そう言つてポケットにしまう。

狼「さて帰ろうぜ!!腹減った!!」

響「わたしも!」

奏「もう2人とも食いしん坊さんね」

エレン「アコ、奏太くん帰ろうか?」

アコ&奏太「うん」

全員笑顔になつて帰り始める。

そしてメンバーはバラバラになつてアコが家に戻る時に道で

鳥「ピー」

怪我をした変わった鳥を見つける。

アコ「大変!!大丈夫?」

アコはその鳥を連れて帰り治療する事にした。

一方の狼と響たち

狼「さゝて晩飯晩飯」うん?

?「誰か!!!助けてくれ!!!」

と声がしてくる。

狼「なんだ?」

響「あれこの声どこかで聞いた事あるような?」

奏「たしかに?え」と誰だったかな?

奏太「?」

?「おい!!」

エレン「とにかく行つて見ましよう!!」

奏「奏太!!!先に帰りなさい!!!お姉ちゃんちよつと用事できたか

ら」

とみんな走って行く。

奏太「置いてけぼりかい!!」

そして声のする方に行くと…なんと渡とキバットがいたのだ!!しかも何故か渡は樹に引っかかって気絶していた

響「えゝ!!渡さんにキバットゝ!!」

奏「どうして!!」

キバット「おおゝお嬢ちゃん達!!手伝ってくれゝ!!」

エレン「とつとにかく降ろさないと!!狼くんお願い!!手伝て!!」

狼「ああ!!【だれだろうこの人?】」

こうして渡は樹から降ろされたがまだ意識がなかった。

狼「とりあえず俺の家に連れて行こう。あそこなら治療センターがある。」

響「よし運ぼう!!」

キバット「ああ!!頼む!!」

狼「わかった【?なんだこのコウモリ】」

こうしてオートバジン呼び出して渡を病院に運んでいたのだった。

一方のアークは何所にいったのか?

アーク降臨！！　そしてガイア登場！！　（後書き）

次はウルトラマン達の設定です！
お楽しみに！！

ウルトラマン達の設定（前書き）

ウルトラマン達の設定です
ではキバってSTARTUP

ウルトラマン達の設定

ウルトラマンガイア【V1】

狼が赤い光で変身するウルトラマン

スペックなどは原作同様だが今作はノアとシンフォニーが生み出した光となっている。

地球の大地の記憶 聖なる音楽の力を持つシンフォニー そしてウルトラマンノアの光が狼と融合して誕生したウルトラマン

この姿はまだ不完全であり真の力を引き出すには青い光も必要となっている。

戦う時はパワーを活かしたパワー重視型でダイナミックに戦うのが得意である。

その分不完全体である為、水中戦や速い敵が苦手

狼の変身ポーズは両手でエスプレnderを構えて突き出す方法を取る。

必殺技はクァンタムストリームとフォトンエッジ

ウルトラマンアグル【V1】

ガイア同様ノアが藤宮海に青い光を与えた事により変身する青いウルトラマン

原点とは異なり人間を初めから守る為力が使われている。

またこの力は本来の青の光の力ではなくガイアの力の一部である。

戦い方はアグルブレードを主に使うスピード技やアクロバティックな動きを得意とする。

だがパワーがガイアより劣る為パワータイプの敵が少し苦手である

必殺技はフォトンクラッシュ

変身ポーズは原点同様

ウルトラマン達の設定（後書き）

次回は音符消失事件と怪獣登場です！！お楽しみに！

怪獣のヒントはズバリ沢山の目！！あっ！

狼「おいおいネタバレしてる！！しかもそれガン！！！！ムグ」
言うな！！

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンの登場にやゝ【前編】（前書き

今回は長いので二つに分けました！！

多分皆さんびっくりするかなゝ！！

後タイトルをプリキュア風にしてみました【本編の方を少しいじっただけですが？】

ではキバってSTARTUP

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンの登場にやゝ【前編】

次の日の朝！小鳥が鳴いているが響は昨日のことで疲れて爆睡していた。

一方のハミイは起きたのだった。

ハミイ「あゝあゝ！よく寝たニヤ！コトリさんおはようニヤゝ」

フェアリートーンが近寄り

ドリー「ハミイおはようドド！あれ響まだねてるドド！」

ハミイ「昨日は渡さんを運んで色々話をしていたみたいだニヤゝ疲れているからそのまま寝かせておくニヤゝ」

響が爆睡してしまった訳

それは昨日の事

響「えゝ！！アークが復活したゝ！！」

狼「マジかよ！！」

困惑するみんな

渡「うん、僕はアークを追いかけてゲートに入ってきたんだけど…」

キバット「あのゲート超不安定だったから渡の奴あちこちぶつけて気絶しちまった訳さ！！」

狼「なっなるほど！【だから気絶していたのか！】」

エレン「おっお大事にゝ！！」

こうして狼達はこれまでの事などの色々な話をした為響は疲れた訳である。

ハミイは音符を確認する為フェアリートーンを覗く

ハミイ「さてどれ位音符集まったかニヤゝ！！ニヤ！！ニヤプゝ！

！！！！！！！！」

ハミイはパニックになりながら響を起す!!

ハミイ「響!! 大変だニヤ〜!! すぐ起きるニヤ〜!!!!」

響「どうしたの〜ハミイ〜? ムニヤムニヤ!」↑寝ぼけてます。

ハミイ「のんきに寝ている場合じゃないニヤ〜!! 音符がぜ〜んぶ消えちゃったのニヤ〜!!」

響「そう…音符が…ふ〜ん…って! え〜〜〜!!!!!!!!」

響は大慌てでみんなに連絡する

しばらくしてみんなが集まり奏の家である Lucky Spoon
のベランダで話す

奏「でも変よね? 音符が勝手にいなくなるなんて…」

狼「音符を盗んだとか? でもさすがに物音したら…いや響なら気づかないか!」

響「う!! ってあたしそんな事…」

狼「そんな事?」

響「あるかも…」

ハミイ「しかしニヤンで音符消えちゃったのにや? 全く食欲無くニヤるニヤ!!」

そっぴいながらもケーキをやけ食いするハミイ

エレン「って言いながら食べてるじゃない…」

苦笑しながら言うエレン

渡「まあまあ! とにかくまずは音符を探そう!! ね?」

アハハと笑いながら言う渡

狼「それもそうですね渡さん!! さてどうやって音符探すか?」

するとアコが

アコ「それならおじいちゃんに頼んでみようよ?」

響「そっか!! あの手があつた!!」

奏「そうね!!」

狼&エレン「あの手?」

渡「?」

とその時店のベルがなった！！

奏「あ！！お客さんだわ！！」

奏は走ってレジに向かい

奏「いらつしやいませ？？？？」

それは何故か豆腐を器に入れて持ち灰色の和服姿の海？だった

奏「海さん？どうしたんですか？【どうしてお豆腐を？】」

すると海？は

海？「俺は海じゃない…俺は天道　総司！天の道を往き、総てを司る男だ。」

と指を天上に向けて言う

奏「はっ？はあ？？」

天道「この町で旨いケーキがあるって噂を聞いて来てみたんだが…四つ持ち帰りで貰おうか？この店の一番旨いケーキを！！」

奏「あっはい！！わかりました。」

自身作のケーキを下の棚からとりだし箱に詰め始める

一方の他メンバーもガラス越しで除いてこの会話を聞いていた。
狼「マジで海ソックリだなあの人！！」

響「世の中には自分ソックリなひとが五人いるって話だけどまさか本当にいるとは思わなかったな」

エレン「後何でお豆腐持っているのかしら？」

全員「さあ？？」

奏「はい全部で1550円です。」

天道はお金を払い箱を持って店から出て行った。

一方のマイナーランド

前回バストラ達が雑な作業をしたせいでアークはあちこちボロボロになり何とかマイナーランドに到着していた。

当然2人は丸一日アークにこっぴどくお仕置きされていた。

アーク「ったく！！この役ただず共！！しっかり設計図をみる！！」
2人「申し訳ありませんアーク様！！」

アーク「全く！！ところでイエティ！グール！音符はどの位集まった！」

イエティ「は！アーク様！コレを！！」

大量の音符が入ったビンを見せる！！

実はイエティ達は狼達に見つからない用に密かに音符を集めていたのだ！

ファルセット「す！凄い！いつの間に！！」

アーク「しかしまだまだ足りない！！ファルセット！！とその馬鹿2人！！音符をもっと集めて来い！！」

ファルセット「は！アーク様！！おいお前達！！行くぞ！！」

2人「了解！！」

3人が行った後アークは

アーク「そろそろアイツも呼び寄せるか…」

場面が変わって調べの館

音吉はメンバーから事情を聞き

音吉「この前と同じ手を使うのか…」

それはこの未完成のオルガンで音符を活性化させ音符を集める作戦だったのだ。

音吉「しかし前にも言ったがこの作戦はリスクが高いぞ！！向こうも動いてくるはずだ。」

響「大丈夫です！！こっちにはスマートの人々がいるから…」

どうやら響はスマートのメンバーに手伝ってもらったらしい。

狼「おいおい！！それは無理だぞ！！」

響「えっなんで…！！」

狼「当たり前だ！！今世界中のオルフェノクやレジェンドルガ達の対応に追われてメンバー全員いないんだよ！！」

腕を組みやれやれと首を振る！！

響「えっ！！じゃあ私達だけ…！！」

がっかりする響

奏「仕方ないよ！敵は個々とばかり決まったばかりじゃないんだから」

エレン「まあまあ！とにかく人数は6人…」

キバット「俺もいるぞ…」

タツロット「私も…」

エレン「ごめん、8人いれば何とかかりますから…」

アコ「お爺ちゃんお願い…」

渡「音吉さんお願いします…！僕は既に正しき闇も手に入れましたから…！奴らが現れても退治できますし…」

音吉はしばらく無言になり

音吉「わかった…！では始めるぞ…」

オルガンを弾き始める…

すると町中の音符が活性化し始めたのだ…

場所が変わりとある平地 突然地面から巨大な目玉が出てきてそのオルガンの音にうつとりした表情になる。

すると偶々訓練中の自衛隊の戦闘機が発見する…

隊員1「なっなんだあれは…」

隊員2「ばっ化け物だ…」

隊員達は直ぐに本部に連絡し本部もこの映像を見て驚き

司令官「直ぐにミサイル攻撃だ…」

隊員1「了解…」

二機の戦闘機がミサイルを発射する…

隊員2「よし…！命中…！してない…」

なんと目玉はミサイルに気づいてそのミサイルを吸収したのだ…！そして地面がパッキリ割れて怒ったガンQが出てくる…！

ガンQ「キュルル…」

ガンQは戦闘機も吸収し始める…

隊員1「うわああああ…」

隊員2「脱出だ…」

そのまま戦闘機を取り込み怒ったガンQは加音町に向かって飛んでいった！！

場面が変わり狼達

外に出て見ると辺り一面に音符が沢山いた！！

狼「すげー！！音符がたつくさんいるー！！」

驚いて口が思わずアングリとなる狼。

奏「さあ！！トリオやレジェンドルガの邪魔が入らない内に！！」

響「全部集めよう！！」

持ってきた網で早速音符を集めるメンバー

渡「それ！よいしょ！」

キバツト「まで！待て！待てー！」↑何故か音符と追いかけてっこ！

タツロツト「テンションフォルテッシモー！」↑同じく

響「えい♪」

奏「それ♪」

エレン「ほ♪」

アコは音符せつせと集めてはバスケットに入れて高い所にある音符に手を伸ばすが届かない！！

するとエレンがキャッチして

エレン「高い所は任せて♪」

するとアコは不機嫌な表情になり黒ミューズのブーツを取り出して履き

アコ「高い所でも平気だもん！！」

と言う！

エレン「それって黒ミューズの時のブーツ？」

アコはやけ気味に音符をキャッチしエレンが笑いながら困った表情をする。

響「アコって意外と負けず嫌い？」

奏「なんかかわいい♪私達も負けてられないわね♪」

響「うん」

狼もチマチマと音符を回収していたが？

狼「あゝ！もう！もう！めんどくせえ！変身！」

【Starting・by！complete】

何故かファイズに変身する

響「え！ちよつ！何やってるの！」

ファイズ「一瞬で音符集めてやる！！行くぜ！！」

【complete】【Start・up】

ファイズはアクセルフォームになり超高速で残りの音符を回収してしまう！！

【three！two！one！Time out！】

そしてファイズAFのアーマーが閉じて

【Reformation】

と鳴って両手いっぱい音符を回収して変身を解除する。

狼「いっちょ上がりつと！！」

響「ワザワザ変身する？」

奏「まっまあ音符集まったからいいんじゃない？」

場面が変わり浜辺

ファルセット「音符がこんなに！！！！これはチャンスだ！！フッフ！！！」

ニヤニヤ笑うファルセット

バスドラ「うん？」

バリトン「はて？」

2人は何かに気づいて空を見た

2人「ギヤアアアア！！！！なんじゃあれええええ！！！！！！」
腰を抜かす2人

ファルセット「やかましい！！！！一体何事…ウワアアアア」

この後3人はガンQに踏まれて伸びてしまったそうな！

再び原っぱ

狼「あゝ疲れた!!」

エレン「お疲れ様」

丁度全員休憩をしていたつとその時!!

人々「うわああああ!!!!きゃああああ!!!!」

凄い悲鳴が町から聞こえてきたのだ!

響「何今の悲鳴!!」

奏「あ!あれ!!」

奏が指差した方角を見るとガンQが暴れているのだ!!

響「うわあゝなにあれ…気持ち悪い…しかも大きいし…」

エレン「目玉が沢山？」

渡「レジェンドルガやネガトーンでも無いねあれ？」

キバット「ああ！」

タツロツト「しかも町中にオルフェノクが!!!!」

この騒ぎにオルフェノク達もどうやら紛れて暴れているらしい

アコ「とにかく人々を助けにこう!!」

メンバーは走って現場に駆けつけそれぞれ変身アイテムを取り出す

!!

狼「まったくしかたねゝな!!行くぜ!!」

4人「町を破壊するなんて!!絶対に許さない!!!!」

渡「行くよキバット!タツロツト!!」

キバット「よっしゃゝ!!キバって行くぜ!!」

四人「レッツプレイ!プリキュア・モジュレーション」

メロディ「爪弾くは荒ぶる調べ!キュアメロディ!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ!キュアリズム!」

ビート「爪弾くは魂の調べ!キュアビート!」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ!キュアミューズ!」

四人「届け、4人の組曲！スイートプリキュア！」
ポーズを決める4人！

キバット「ガブー！」

渡「変身！！」

渡はキバEに変身する

狼「ガイアアアアア！！！！！！」

エスプレンダーを構え赤い光と共にガイアに変身する！！

ガイア【目玉怪獣は任せろ！！みんなはオルフェノク達を！！】

メロディ「わかったわー！！」

ガイア「頼んだぜ！！行くぜ目玉野郎！！」ジュワ！！」

ガイアはガンQに向かって走って行き！！

ガイア「ジュワアアアア！！！！」

ストレートパンチを放つ！！するとガンQはひらりと交わし触手のような物でガイアの首に巻きつけ

ガンQ「キュルルル！！！！」

そのままガイアを放り投げてしまった！！

ガイア「デュワアアアア！！！！！！」【うわあああ！！！！】

見事に建物に激突しガンQは目がつこりとする！！

ガイア【くそ！調子に乗りやがって！！コレでも喰らえ！！】

立ち上がり両手を上に上げエネルギーをガイアヘッドに溜め始める！
ガイア「ジュワアアアアア！！！！！！！！！！」デュワアアアアア！！！！

ガイアヘッドから鞭のようにしなせながら光の刃でありガイアの必殺技の一つフォトンエッジを放つ！！

だが！！

ガンQ「キュルルル！！！！」

なんとガンQはフォトンエッジを吸収してしまった！！

ガイア【なに！！ぐっ！！！！】

【ピコン！ピコン！ピコン！】

虚しくもライフエナジーが鳴る！必殺光線は破壊力に優れる分エネルギー消費が一番激しいのだ！！

ガンQはと言うと何故か急に大人しくなっていた。

ガイア【え？どうしたんだ？】

ガンQ「あゝお腹いっぱいキュ〜遊んでくれてありがとうきゅ〜！」

ガイア【へ？どういう事だ？ってお前喋れるのか！！って遊び？】
びっくりするガイア！！

ガンQ【もちろんキュ〜！！】

ガイア【なんで暴れていたんだ！！て言うかまずそこ座れ！！】
何故か胡坐をかいて座る二人

ガンQ【僕は只だ綺麗な音楽を聴いていただけなのに、いきなり攻撃されてイライラしたからもつと音楽が聴けるこの場所に来たんだキュ〜！！後さつきはごめんなさいキュ〜！！】

ガイアは頭をポリポリし

ガイア【だからと言って暴れるなよ！！全く迷惑な奴だ！！よし今回は許してやる！！ただし！！】

ガンQ【ただし？】

ガイア【お前俺の仲間になれ！！】

ガンQ【え！僕がキュ〜！！】

ガイア【ああ！！お前の能力は役に立ちそうだしな！！！！】

ガンQ【分かったキュ〜！！でも僕のサイズじゃ〜！！】

ガイア【任せろ！】「ジュワアアア！！！！」

両手をクロスしてガンQを人間の手のひらサイズにする

チビガンQ【小さくなったキュ〜！！】

ガイアはそのまま狼に戻り

狼「とりあえずここに入ってる！！」

チビガンQ【わかったキュ〜！！】

狼はそのまま走ってオルフェノクが大量発生した現場に向かって行

つ
た！！

後半に続く！！

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンQ登場にゃ〜【前編】（後書き

次回は後編です！！では

ガンQ【また見てね〜キュ〜】

狼「なんでお前が…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5138y/>

劇場版！仮面ライダーキバ/ファイズ!ウルトラマンガイア!!スイートプリキュア

2011年12月3日14時06分発行